

SIAF についてのモヤモヤしたアレ

第3回座談会レポート

作成者：主催 高橋弘子

開催日時：平成28年9月19日 14:00～16:00
内容：第3回イベント 座談会 in 中島公園（芝生）⇒天候の都合で倉式珈琲店札幌中島公園店へ
議題：『資料を見て振り返る札幌国際芸術祭（SIAF）』（土日祝日版）
参加者：5名（一般参加者3名、主催側2名）

<一般参加者内訳>

- ・居住地域：札幌市内2名、札幌市外1名
- ・芸術関連活動：アマチュア作家 or プロ作家1名、鑑賞のみ1名、無記入1名
- ・年代：30代1名、40代2名

<芸術祭参加状況（SIAF2014）><芸術祭参加状況（SIAF2017）>

今回は参加状況のはヒアリングなし

座談会については前回同様に事前の参加受付を行っておらず、当日直接来場してもらった。当初、中島公園の芝生での座談会を計画していたが強風のため、近隣に所在した倉式珈琲店札幌中島公園店へ移動した。飲み物のほか軽食、スイーツも囲んだことから和やかな雰囲気を挟んだが、集まった参加者に初対面の人が少なかったことから会話は盛り上がりを見せた。

今回の座談会テーマに合わせ、現時点での公式資料のうち主催高橋が所有のものを持参。机の上に置き、参加者には自由に手に取ってもらえるようにした。内訳は「札幌国際芸術祭（仮称）基本構想」（平成24年6月）、『Switch 別冊（札幌国際芸術祭2014 オフィシャルガイドブック）』（平成26年7月）、「札幌国際芸術祭2014 全体概要」（平成26年11月）、札幌国際芸術祭2014 ドキュメント『人と自然が響きあう都市のかたち』（平成26年12月）、「札幌国際芸術祭2014 開催報告書」（平成27年3月）、「札幌国際芸術祭2017 テーマ／開催概要発表」（札幌市HPにて平成28年5月公開）、SIAF2017 記事の掲載された広報さっぽろ、SIAF2017 チラシ、さっぽろ八月祭チラシ、パブリックミーティングのチラシおよび当日配布資料（開催概要）。

座談会では話す内容を定めず、自由に話し合ってもらった。内容は下記の通り。会話はやり取りとして繋がっているものはなるべくまとめて記すが、大きくは時系列ではなく項目で仕分けした。ただし、項目の中ではおおむね時系列順に記した。

（1）SIAF2014

SIAF2014 についての話題では展示会場や作品そのものについての言及が多く、展示会場については「その場所が現代美術の展示またはパフォーマンスを行う場所として適切であるか」という問いかけがあった。また、作品についての話題では地下歩行空間での展示や札幌市資料館での『コロガル公演 in ネイチャー』、モエレ沼公園での能楽×アイヌ古式舞踊『北の大地を寿（ことほ）ぐ』などが上がった。

○鑑賞・参加等

- ・SIAF2014 があったことは知っていたが、日程が結構いろいろなものとかぶってしまう。夏はイベントが多い。そのあとぐらいはJOIN ALIVEとかサッポロ・シティ・ジャズとかにかぶってしまって、とても心配だった。いろいろなところでも催し物があり、とても面白そうだと思っていた。
- ・盆踊りのワークショップ？を見た（札幌市資料館で開催していた『とくいの銀行』の関連？）
- ・札幌市資料館で開催されていた『絵本会議』はどちらかというと子供向け。

- ・テレビ塔でのインターネット闇市は1日だけだったから行けていない。
- ・「ほぼ全部行きました」というのはYさんぐらいしか知らない。Yさんの場合は、全会場行ったそう。
- ・SIAF2014 公式の書籍（『人と自然が響きあう都市のかたち 札幌国際芸術祭 2014 ドキュメント』）には「実際にどういう内容で開催されていた」というのは書いてある。
- ・資料館は人が結構来ていた。『コロガル公園』（『コロガル公演 in ネイチャー』YCAM Inter Lab + 五十嵐淳さん。以下、『コロガル公園』と表記）などもあったためと思う。
 - 雨で見られず残念だった。
- ・『コロガル公園』のボランティアセンターだったが、人が足りなかった。子供たちはほんとうに走り回る。大丈夫かというぐらい走り回って、帰りにバスにずるずる引っ張られるようにして帰った。面白かった。子供というのは限界まで動くのだなと実感した。「追いかけてこしよう」とくるから、ボランティアに入る側もかなり体力がないと。監視員だから一緒に遊んであげるのが仕事ではないが、つい、いい気になって遊びたくなってしまう。
- ・『コロガル公園』は年齢制限がある。あそこの中に入る場合、ボランティアというかたちで入るのが一番。
 - 大人も本当は、わーっとやりたいのかもしれない。
 - 子供しか入れないと、それは遊び場なのか、アートなのか曖昧では。アートなのか、遊具なのか。
 - 『コロガル公園』は遊具では。
 - 『コロガル公園』はすごく好きだが、アートなのか？と聞かれると首をかしげてしまう。
- ・山口かどこかにも『コロガル公園』があって、そことつながるとかいう企画があった。子供にしたら会ったこともない、違う土地の人と話すというのが面白いことなのかもしれないが、大人になると、skype 会議とかもやる。
- ・（『コロガル公園』の）アートとしてのテーマのようなものはよく分からないが、テーマはあったはず。
 - ボランティアの人もテーマを把握していない現状があった？
 - ボランティアの人もコンセプトを把握していない現状はあったが、素人が全部分かろうとしても無理だと思う。分からなくても楽しめるものなんていくらでもある。アートといっても、全部が全部好きなわけではない。「これは世界的に有名なアーティストのアート作品です」と言われても、嫌いなものは嫌い。それでいいと思う。それをすべての展示物とかプロジェクトが、万人に分かりやすく、とってしまうと、ぼやける。「私はこれは分かるけど、これは分からない」というのがあって全然問題ない。
 - それはすごいいい意見、「アートとはなんぞや」というのはそういうことでは。
- ・みんな地下歩行空間は通ってるのに、普通にサーッと流れていた。
 - 地下歩行空間自体で、（SIAF 以外に）時々アートの展示をやっている。それと同じ環境の中で、「今やっているのは芸術祭の展示ですよ」「いつやっているのは別のなんとかで」と言われてもあまりピンとこない。SIAF2014 のときに、芸術祭終わったあとに、さっぽろアートステージが開催された（2014年11月8日～12月7日）。「あれ？芸術祭は終わったのでは？」と混乱したし、もや～とした。前後を完全に何もしない静かな期間を作ったほうが、メリハリがついていいと思った。
- ・（地下歩行空間の展示では）「これが芸術祭のレベルですよ！」というのをあそこで見せることができなかったのが、SIAF2014 の芸術祭の見せ方の力量のなさだったと思う。申し訳ないが、国際ってつけるからにはその違いを見せてほしい。
 - 「札幌が違う都市空間になった気がした、なんだろう」のように思えるもの。
 - 趣味の発表会レベルであってはいけない。私たちそうだとは言わないが、国際的な人たちを連れてきた割には、地下歩行空間の展示はあんまりインパクト持っていなかった。「ゴミが展示されてるわ」と言う通行人の言葉を聞いたときに「否定できない」と思った。
- ・地下歩行空間でやるにあたっての展示の仕方というのは、アーティストの展示の仕方というか、会場の作り方が、ああいう場所なので、何を置いても目立たないというか、量的にも厳しい。
 - あそこは出来ることが限られ過ぎている。
 - そもそも展示を観るテンションでいる場所ではない。
 - あそこだけ違うブースにして、例えばホワイトキューブや座敷のようにすると何か変えれば、もうちょっと違って、目に留まったのかもしれない。

- ・(毛利悠子さん地下歩行空間の作品と連動した展示を行った) 清華亭はすごく良かった。
 - (清華亭では) 機械でものが動くみたいなことが、結局イリーガルというか、作品として際立っているというのが仕掛けだったと思うが、同じものを地下歩行空間で展示するときの、その工夫とかが足りなかったのではないか。
- ・地下歩行空間会場の展示のテーマが流れるようなものだから、流れを滞らせるものをつくとイメージ合わなくなると思う。
- ・予算の問題もあるだろう。
- ・あそこ(地下歩行空間は) 通路だからあまりいじれない。
 - 制限はあるだろうけど、という意味においてはそこまで変容させられなかった。
- ・モエシ沼と地下歩行空間というものは、使いたくなる。でも、うわっつらなことしかない。音楽でそういうところから話がきて、こないだ藻岩山のイベントに行ったが、やたらと僻地が多い。結局音楽なんかできない、まともな音響機材がないと。ピラミッドの中でやると、音が反響しまくる。
- ・モエシもそうだし、僻地のところというのは、とにかく存続させようとしてのことか分からないが、これはすごく端から見たイメージだが、そうやって活動してますよって報告しかしてないのかなとしか思えない。うわっつらのものばかり。もらってるものはもらってるからいいし、一生懸命やるが、コンセプトがいまいち分からない。今、藻岩はホスピタリティも素晴らしいし、ホテルか空港みたいになっている。そして、札幌市を一望できる。だが料金が安い。一回登るのに一人1,700円(大人一人/往復)。上に上がったら、いろいろある。「プロジェクトを作りました」といって、結局そういった、プロジェクトを作る人たちのため、ポスト作るための話なのかなと思ってしまうぐらい。それは例えばクールジャパンと、ああいうものと変わらないコンセプトになってると思う。誰のためのものなのか? モヤモヤしてた理由が少し出てきた。町づくりの活性化、観光の振興、経済の振興というのが基本的に札幌市や、そういう人たちが担ってる仕事だが、結局自分たちのメリットに向いてるとしか思えないようなうわっつらなもの。丁々発止に思えたのは、やっぱりまだ、熟考していないし、コンセプトちゃんとやれてないし、アウトバウンドや宣伝的な部分においても、いいパーソナリティを持ってる人たちをちゃんと活かせていない。結局そういったいろんな場所、地下歩行空間などいろいろ使うが、今ひとつスッキリしない。派手な仕掛けやチラシなどもいっぱいやるのだろうが、経済の振興というのは、その非日常性だけで、単なる打ち上げ花火をあげるということなのだろうか。食というのであれば、もっとやったほうがいい。芸術祭に食があるのなら。その関係性というものが、全然出せていない。ただ出来あがったもの、食をやりました、ということに収まっている?
 - SIAF2017においては、食関連は公募のもの(『モバイルアースオープン』安齋伸也さん) ぐらいか。
 - 2月にまたパブリックミーティングがあるらしいという、資料館のカウンターのお兄さんによる情報が。
 - 年内はもうないのか?
- ・個人的にはSIAF2014で雨が降ってしまった『北の大地を寿ぐ』を、けりつけてほしいな、という思いはある。あのままあれはないことになってしまうのか。準備したあれとか、野村萬齋さんとか来ないのか? という。
 - それはモヤモヤどころの話じゃない。モヤモヤモヤモヤ、もっとモヤがいっぱいある。カッコ怒り、も入ってくる。
 - あの時は私の界限、いわゆるスピリチュアル系統の感覚でいうと、「あの時に雨が降ったのは、準備が整ってなかったんだね」という感覚になる。だから何か失敗したとか、冷めちゃったとかではなく、「まだ整ってないんだね、アイヌと和人の何か」みたいな。「何かのエネルギーが満ちてないからそうなったんだ」という解釈。そうすると、ちゃんと然るべき準備が整った時に、あの寿ぎの場を、ちゃんと札幌の場において成就してほしいという思いはすごくあるので。それがないままに、SIAF2014では「雨だったからもうやりません」になってしまうと、「あれは何だったのか」ということになってしまう。
 - 私は、芸術祭だからテーマはあってもなくても、いつかまたやるのかもしれないと思うが、やらなくてもいいと思っている。あれは、あの時だけのものだから、あれをもう一回やるというのは、「なぜもう一回やらなければいけないのか」というのをはっきりしなかったら、ただの二番煎じだけになってしまうから、消化されるのだったらそれでもいいが、能のすごくいいのがあった。それが見たかったのだけど。

→野村萬齋さんもゴジラやったりとか、いろいろ計画があったので。

- ・アイヌのそれと能というものが出会う感じが、すごく本来と将来だし、移ろいと面影。能というのは発展してきているし、マルチメディア。そういう部分と、ジャパントラディショナルなものとかちゃんと出会い、元々能だっただけで、そういうコズミックなダンスをやったりする。それとそういうのが出会うというのは、すごく私も見てみたい。盆踊りとかは、遠藤ミチロウさんが膠原病が治って、別の時にやった。そういうことがあっても全然おかしくはないし、盛り上がったわけだから、あれはあれですごくやってほしい。中止になった企画。でももう、できないのかもしれない。機運ってやつなんだろうと思うが、とってもしっかりないという事柄が多いところにモヤッとする。芸術祭のコミット率は悪くないだろうし、もうちょっとしっかりと。
- ・『北の大地を寿ぐ』は、チケットの値段の高いのと安いのがあった。雨天になった時に道新ホールで振替でやる講演を見られるという券が高くて、私が買った2,000円ぐらいの券は雨天の場合は払い戻ししてもらえると。たぶん数量限定で、高いほうのやつは道新ホールに入る分しか売らない。当日雨が降るか降らないかというので、ものすごく中の人たちもやきもきしていた。もちろんみんな相談しながらやっていた。その時に「まだ大丈夫かもしれない」というのがあって、それに賭けた。というのは道新ホールになると見られる人がものすごく限られてしまう。たぶん2,000円のチケットのほう売れていたのだと思う。出来るだけ多くの人に観てもらいたいと、なんとかなるほうに賭けたら、結果なんともならなかった。だからあれは、中の人たちがみんなに見てもらいたいと思ってチャレンジして、道新ホールも借りているから、どちらにしろお金はかかるのだが、それをすべて、自分たちの努力を無にしても、見てもらうほうに賭けた、ナイスファイトと私は言ってあげたい。ただ開演の時間に「あと30分後に中止するか、やるか決めます」と言われた時には、「やめろ」と思った。「中止にしろ、帰らせろ」と思った。中止のアナウンス出るまで誰も帰らなかった。
 - 私は入口で「もうやりません」と聞いて帰った。カレー食べて。すごく鮮明に覚えている。
 - 私はずっとあそこの段々になっているところで、中に入ってずっと雨に打たれて、ずっと待っていた。あそこにいる人たちはみんな同士。「早く雨やめ」と祈っていた。というか、これだけ濡れていたら、舞台が濡れて使えない、雨がやんでももう無理だ、と思っているのだけど、中止のアナウンスが入らないから帰れない。びしょ濡れだった。でも最後まで頑張ってた。ダメだった。まあでもそれも楽しかった。最後には「お疲れ！」って言いながら。あれは褒めてあげたい。それでだいふ叩かれていると思うが。
- ・いつか、長瀬剛さんが富士山でライブをやると。富士山の見えるところで。「そこに行く人いるのかな」と思ったのだが、いる。ファンの人とか。すごく辛かったのに、長瀬剛さんはヘリコプターで到着して、そのヘリコプターの風で何かが倒れてケガ人が出たり、長瀬剛グッズもいっぱい売っているのだが、Tシャツ5万円とか3万円とか、すごい小さい手旗が千円とか。水とかしょうもない食べ物をいっぱい出して、それで大批判くらっていた。帰りのバスがないとか、取り残された人がいるとか。しかも朝日が出てきて終わる。それに対して批判がすさまじくて。でもそういうことは昔はもっとあったと思う。回を重ねるごとにだんだんそれがソフィスケイトされていく。吉田拓郎さんが「つま恋」というコンサートをやる。フェスみたいなものを日本で初めてやった人なのだが、それもすごい、長瀬剛さんぐらいの批判を受けて、そのあと下島で同じことやった時は、すごいソフィスケイトされていて、いろんな事柄が、細かい事柄が。だから、もしそういう芸術祭とか有益なものであるならば、回を重ねるごとに、いろんなものをとり入れなきゃいけない部分あるんじゃないかなと思う。だから、好きな人、アートに関わりを持って好きな人は、富士山さんだっただけで登るのかもしれないね(笑)。雨の中で打たれても、OK！みたいな、やるわけだよ。考えられない、私からしたら。いたたまれない。「やめろよ」ぐらい思うが、好きな人は好き。そういう人はいいけど、分からなくてもいいって部分って、みんないろいろ取り組んで、活性化というところにつなげるイベントも、この趣旨が有効ならば、そういうこと、どうつながっていくのか、分からない。今、モヤモヤしまくっている。

(2) さっぽろ八月祭 (2014-2016)

さっぽろ八月祭については SIAF2014 での開催と、単独での 2015 年の開催、SIAF2017 プレ企画としての 2016 年の開催があるため、別項目とした。盆踊りを取り上げることへの肯定的な意見のほか、「福島を消費しているのでは」という意見も出た。(さっぽろ八月祭については、以下、「八月祭」と表記)

○参加

- ・オーケストラに参加した。2014 年から参加している。
→私もいた！

○八月祭に向けてあれこれ思うこと

- ・自治体側の人で八月祭にモヤモヤしている人もいる。大友さんがディレクターということで、見せる部分に乏しいのではないかと。アートというものの良さを伝えるのに、例えば音楽的な部分以上のものがある。その部分において、人選がいまいちなのではないかと。周りにチョロチョロしている人間がつぶやいていても意味が分からない。
→適切な人選がそもそも何かということ？
→大友さんが果たしてどういうふうにディレクションできるのかということとは未知数。音楽は音楽でやったほうがいいのではないかと、という。マーチングエリアライクな感じではない。どういことをしようとしているのかも、いまだに分からないし。「芸術祭ってなんだ？」ということがテーマに持ってくるというのが、謙遜ですごく良いと思うけど、まさに芸術祭のモヤモヤのアレということのパブリックでやってるわけだ。「迷ってます」ということをバートとできるのが素晴らしいと思う。
※ SIAF2017 概要パンフレットの挨拶文にて、大友さんはテーマについて触れている。資料を参照した。
- ・芸術祭のイベントで八月祭が要るのだろうか。SIAF2014 の時にやって、すごく盛り上がった。さっぽろ駅前通まちづくり会社が翌年 (2015 年) 頑張った。そこまでは分かるが、SIAF2017 のイベントとして開催した時に、2014 年から引き継ぐものとしての位置付けもあると思うが、さっぽろ八月祭 (2016) の開催が先に決定していたから、それにかぶせただけのように私には見えた。
→「いいのがあるから使ってしまうおう」のような感じだろうか。同じ人が絡んでいるからか。
→前回はいち参加アーティストで、今回はゲストディレクターになったためにちょうどよかった、ということなのだろうか？
- ・盆踊りにしても、私は盆踊りというと何百年の念仏踊りから始まって…という捉え方だったので、最近、「明治になって実は」という話も聞いたので、「そうか、そういう捉え方もあるんだな」と。
→私はやりたかった、ああいうこと。盆踊り。盆、ダンス。もっとああいうことをやりたくて、「やられちゃった」と思った。
→でもあれは元が『フェスティバル FUKUSHIMA! 』。東日本大震災に絡んでいることに関しては、かなりいろいろと思うところがありすぎるので、それを芸術祭でやるということに対しては評価しない。うまく使ってる。それこそ福島を消費するのではないかと、思っている。SIAF2017 で、『フェスティバル FUKUSHIMA! 』といってなぜか「大風呂敷」しか言っていない。札幌駅前通まちづくり株式会社がやってるのは八月祭だから、違う。そこを私は気づかなかった。『フェスティバル FUKUSHIMA! 』をやった翌年にまた同じことをやっている…それは八月祭なのだが。またやったから、『フェスティバル FUKUSHIMA! 』が流れてるとは思わなかった。「でもあれは八月祭で札幌でやってる別のものだから、ま、いいか」と思うが、それに関してはすごくモヤッとする。
→キーワードがはっきりしてないようだ。
→大風呂敷の由来も知らないで楽しく踊ってる人もいっぱいいる。
→それに関しても SIAF の中ではいろんな議論があるらしい。『フェスティバル FUKUSHIMA! 』の代表が「いいじゃないか」と言っている。「私のものではないから、本体がそういうなら、それでいいや」と思うが、一個人として思うところは山のようにある。

(3) SIAF2017

実施したイベントなどの内容やゲストディレクター、出展作家などの情報の提供・公開についての提議のほか、地域にあるアート活動を巻き込めていないのではないか、また、地域の施設を取り上げることで関係者が懸念することなどの話題が提供された。リスクを含めたマネジメントの話題などでは、SIAF の内部で関わっていた人とそうでない人との間の感じ方の違いなどが見て取れた。また、SIAF との比較対象としてサッポロ・シティ・ジャズも話題に上った。「地域の発展に寄与できるか」という観点での議論も多かった。

○基本構想

- ・基本構想については、SIAF2017 に関しては、発表してからは基本構想は変わっていないはず。SIAF2014 の分はベースにはなるが、それぞれ、SIAF2014 になって、SIAF2017 があって、もし今後、またやるのであれば SIAF2020 が個々のカラーを持って、基本構想の上に立つと思う。どこに重きを置くかというのは、変わっていくと思う。3 回やるのに 10 年かかるんだから、変わって当たり前だと思う。「この時はそうだったけど、今はまちづくりの活性化するよりも、観光をやらなくてはダメだ」となっているかもしれない。住んでる場合じゃなくなってしまうから。

○広報・認知

- ・「チラシを見た」と思ったらすでにその日に予定が入っていたりしてなかなか参加できないことがあり残念。
- ・SIAF 本祭がない期間には SIAF ラボが色々なプロジェクトを行っている。
- ・SIAF2017 のチラシは目に痛い。
- ・SIAF の概要についてあまり分からない。全然無知である。楽しそうでもあるかも。
 - ※ SIAF2017 の概要、予定会場、事務局のメンバー、さっぽろ八月祭について公式の公表資料を参照した。
- ・SIAF2017 は大友良英さんがディレクターということもあって、割と音楽性が強い感じの中身になりそう。
- ・前のときは分からないが、今の SIAF の、また別の中の人「SIAF」という札幌国際芸術祭の略称があまり広まってないことを知らなかったとかいう、その認識に先日驚いた。
 - まだそんなことを言っているのだろうか？前回のやつは一切広まってないというのは中の人も分かったはずなんだが。
 - 言ってる人はいる。
- ・SIAF ラボの企画でもいろいろミーティングなどがあり、デザインミーティングもあったが、「デザインミーティングをやりました。この人たちに来て、こんな講師が来て、やりましたよ」というのだけど、市民からどんな意見が出たのかなど詳しい中身はないので、「あ、うん、やったんだね」ぐらいしか受け止められない。その日に参加できない人もいるし、どんな話があったのか、というところを知りたい。現場に行けなくてもそれを聞いておくことで、別のミーティング類に行く時の気持ちなども違ってくると思う。
 - その前にあった話を踏まえて聞きたい、というはあるから、そういう人のために、終わったことをちゃんとまとめて報告する、というのをやっていかないといけない。パブリックミーティングだったのだろうか、誰だったかが映像をあげていた。SIAF ラボかもしれない。ラボは結構真面目にレポートあげている。1 回目のパブリックミーティングの時に中の人に「早くまとめて、内容入れて」と言ったことがある。
 - 誰か書いていた。ブログで書いてたかもしれない。
 - そういえば見た記憶が。そもそも私も (1 回目のパブリックミーティングで) 思い切り質問しているので、あの質問がどこかに隠れていてもおかしくないはずだが、見た記憶がない。
 - 質疑応答までブログなどにはなかったと思う。
 - 札幌市に議事録で何かしら残しているとは思うが。
 - 「公表しなきゃダメだよ」と私も言って、どこか表側に映像だったか、貼っていたような気がする。でも SIAF2017 になったことでホームページ変わったのもう分からない。
 - 分からないと貼っても意味がない。
 - 新しいホームページになってから、がらっと動いてしまって。「前の情報どこ行った?」「もうすでにない」

という状態に…。

→ないかどうか微妙だが、ある場所が分からないと、探し当てられない。新しいサイトにはサイト内検索が確かなかったと思う。SIAF2014のサイトは確かにあった。

- ・前のサイトも分かりにくかった。今回もおしゃれに作ろうとしているのは分かるが。アートディレクターにしてみたら、このサイトは自分の仕事のひとつで、「あなた過去にどんな仕事したんですか」と聞かれる時に、「これやったんですよ」ってこのサイト見せられる。だから「分かりやすいけど、どこにでもあるもの」は作れないのだと思う。だから分かりにくくてもすごいものって感じで。
- ・私のスマホで見ようとしたらヘッダーしか出てこない。空白がすごい。ちゃんと読み込めていない。スマホ対応はすると思うが…。
 - 本当はこのページをスクロールすると、パソコンの画面だと大友さんの写真が、青い画面の時は青い顔で、オレンジの画面の時はオレンジの顔で出てくるのだが、出てこないようだ。
 - iPhone4 だからダメなのだろうか。
 - アクセスする人は、最新のものを持ってるわけではなくて、それこそガラケーの人もいれば、「パソコンなんか持ってませんよ」という人もいろいろいる。
 - それを全部対応するとなったら、それだけで予算を使い込んでしまう。どこかで切らなくては。
 - 通信業界に文句を言う話。基本的なものしか持っていない人が見られないシステムは変。
 - 通信業界の人は変えるのやめてくれないだろうか。
 - 私がスマホにしたのは、自分のフェイスブックのページが自分で見られなくなったから。ガラケーでは見られない。
 - バージョンアップのマイナーチェンジをして儲かる側になりたい。いつも振り回されている側。ルールを作る側がいつも強い。
 - ルールは胴元に有利なように作られる。作る側にまわるといいが、私は嫌だ。
 - ・porocoにも特集ページで掲載されている。porocoに掲載とか、おしゃれ。

○構想

- ・SIAF2014が開催される前の基本構想の資料なども発表されているが、SIAF2017ではそこからの違いはあるのだろうか。
 - はずさないだろうけど、違ってなかったら、なぜ2回目を開催したのだろうか、という感じになる。同じことをやっているだけだったら、それは現代アートなのだろうか。
 - だから前回は坂本さんで、今回は大友さんなのではないか。

○ゲストディレクター

- ※ SIAF2014では音楽家の坂本龍一さんが、SIAF2017では音楽家の大友良英さんがゲストディレクターに就任している。
- ・素人判断だが、(二人のディレクターは)カラーが全然違う。面白いと思う。
 - 『without records』という、大友さんが山口情報芸術センター [YCAM] などで行ったの現代アートの展示の報告集のような書籍を先日友人から借りて読んだ。まさにアートのものだったので、実はそういうことをやっているから抜擢されているのだが、普通の人から見たらどうなのだろう。
 - ※著者註：『without records 2005-2012』(著者：大友良英 + 青山泰知 / 編集・発行：golightly inc. (株式会社ゴーライトリー)) のことか。
 - 『without records』は東京の現代美術館で見た。あそこで再現されていたので。
 - ・大友さんではない違う人がよいのではとか、何かしらそういうことを言う人が出てくる気がする。音楽の人という感じだから。
 - かといって、こてこてに現代アートの人だと、それはそれで面白くないという人は中にも。
 - 広報がそのへんのPR不足というか、大友さんの紹介の仕方をもうちょっと分かりやすくしてよいのでは。い

ろんな芸術祭にも参加してる。

→音楽家の、としか紹介されないのかな？ ゲストで呼んでる人をちゃんと紹介できてない？

→最初のパブリックミーティングのときも、冒頭から大友さんと札幌のヒストリーの映像流れたが、どこそこでライブやってというような流れだったので、ミュージシャンだという印象が強い。アート系の活動の紹介もあったような気がするが、今となると、どうだっけと。

・芸術は音楽も含んでいる。だから、ミュージシャンで何が悪いのかと思う。

・SIAF2014 に関わったときに、ディレクターが坂本さんで、ミュージシャンが美術やるというのが全然しっくりこないから、「え？」と思っていたが、別に芸術祭というんだったら、問題ないのかなとも思える。ただ美術の展示メインになっては難しいところはあると思う。でも大友さんはやっているから。

・顔役としての役割のほうが大きい気がする。いろんな人の交流とか、人が出入りするようにはさせるためにタレントが欲しいわけで。もちろんそれ以外にも関わってる人はいっぱいいるが、であれば、例えば「坂本さんが来ます」だけではなく、いろんな各分野の人、それぞれ坂本さんぐらいに表に出していくやり方のほうが面白いと思う、マルチメディアでアートというものをやっている芸術祭という感じがして。例えば、先ほど（資料で）見たところ、能なども入っているし、食も入っている。その分野におけるスペシャリストみたいな人を顔にもってきて、いくつか並べていく、揃えていく、そこでPRしたほうが「いろんな人が集まってるな、わくわくする」というところが、より強調されたと思う。その人たちをもっと表に、坂本さんや大友さんと同じぐらいに、1本柱じゃなくて出していったら、街というものの、要するに振興だとか、町づくりの応援とか活性化ということにつながるのでは。

→芸術祭は一応観光客誘致みたいなところも目的になっている。

→それが継続されるような、また新しい型、フォームを生み出していけるような目的があるのであれば一人でもいいのだが、ダ・ヴィンチじゃあるまいし、各スペシャリストがみんな関わっているわけだから、その人たちをもっと顔として出していったほうが、活性化したかもしれない。

→今ブログで（芸術祭のバンドメンバーなどが）一人一人記事をアップしている。

→「こういう人がいて、すごい人がいる」というのを前面に出してれば見方は変わってたかも。今回もまたそこが弱い。

・最初いきなり坂本さんがガンになってとか、それでシュンとなった感じがあった。

→だから1本柱ではどうかと思う。顔役は1本柱ではないのでは。

・大友さんは何回か人前で話しているが話が面白いし、いろいろ言うが、筋が一本しっかりある。ぶれないってすごいと思う。

→前回、座談会に立ち寄ってくれた。そんなのわざわざ様子見てくれるんだな、と思った。

○マネジメント

・SIAF2014 のときはさんざんだった。坂本さんが直前にガンになって来れなくなって。大竹伸朗さんという、アーティスト界の中ではすごく有名な人がすごい作品を持ってくる予定だったのだが、それがぼしかった。モエレ公園での『北の大地を寿ぐ』が雨で中止になった。

→それを観にモエレまで行った。

→私も行った。オープンと同時にすごい雨降りになった。

→それでぼしゃるといふか、それでテンションが落ちるぐらいのリスクマネジメントしかできていなかった。

→雨が降ったらできないよ。

→マネジメントの問題。坂本さんが一人ガンになるとか、健康の管理も含めて、いろんなマネジメントが全然では。顔になっていた人が来られなくなった、ということも含めて、非常に丁々発止でやってるなというふうに見えてしまう。

・SIAF2014 に関わっていたときに、坂本さん来なくなり、坂本さんに関連しているイベントが全部差し替えや中止にしないとならなくなったが、(SIAF の) 中で働いていて、「坂本さんの仕事は終わってるからいいよ」と思っていた。始まる直前だから、もうプロジェクトも決めているし、コンセプトも当然決まっているし、芸術祭本番

を迎えるための現場作業になっているから、あとは確かに顔としての坂本さんが来る、来ないで、一般のお客さんの動員数が変わるだろうが、見せるものとしては体は成しているから、と思っていた。

- ・坂本さんの件や大竹さんの件、能とアイヌの公演などがうまくいかなかったというだけで芸術祭自体のテンションがガクッと落ちるのが問題があるということ。他に柱にする人、山川冬樹さんや毛利悠子さんなどいっぱいアーティストがいて、そういったところをもっと、前々から「若くてもそういう人がいるよ」ということを、もっと出してあげばそういったところもカバーできたのでは。
- ・坂本さんが来なくなったが、私は（SIAFの）中の人だったからテンションが落ちていなかった。周りはどうだったか？
 - もちろんそれは落ちた。それだけ、彼がメインディレクターで、彼のカラーになっているイメージだったので、その人が来なくなるとなると、「うーん」となる。他が逆に見えていなかった、誰が来るとかが、まったく。
 - 他の目玉が何か分からない。
 - そういうことをもっと広告したりするのも重要では。
- ・八月祭だとかそういうものが、芸術祭じゃないところで、例年のようにああいう活動するわけで、それは素敵なことだなと思うけど、では芸術祭というのはどこからどこまでなのか。どれだけスペシャルなものであるかということをいまひとつ表出しきれていないというところが、非常にマネジメントとして、ちょっとまずかったのではないか。

○公募

- ・『モバイルアースオープン』は公募を通った中で一番どうなるかわからない。まったく予想がつかない。
 - これはむしろ「安齋さんありき」なのでは。
 - （公募に通った）このメンバー、いずれもありきのようにも。
 - 個人的に私も安齋さんに興味がある。
- ・SIAF2017に向けては市民から公募を募り、最終的に5つの事業が選ばれた。
 - そのプレゼンに落ちた。チンドン・パレードをやろうということで、ある人が（私に）「名前を使っていいか」と聞いてきたので、「どうぞどうぞ」と。「でもお前の写真出したら、プレゼン落ちるよな」と言われ「そうかもしれないけどね」などと言っていて、落ちた（笑）。
 - 「おかんアート」の企画で出して一次審査は通ったが私も落ちた。「地域性がないからダメ」というような理由だったようだ。パブリックミーティングのときに選考基準についての説明があった。「地域性があるかどうか」や「(SIAF 実行委員の) バンドメンバーとやることでより面白くなるのか」「既存の価値単位で測れないもの」といったこと。
 - もっと変わりそうな期待値というのがかなりのってるらしい。
 - そういうふうに審査基準があるのなら、いまさら「芸術祭ってなんだ？」という問いは要るか？という気もした。（実行委員側が）やりたいことは決まっているのだと感じた。
 - まさにでも、このあとがこれに一番ふさわしい気もする。「芸術ってなんだ？」。
 - 地域の原点は家庭だと思う。
 - 地域性というものをすごく出すが、地場から起こってくる、一般市民の側からのもの、そういうものはあんまり拾わない。
 - 「水脈がどうこう」とかそういうかっていいことやるが、「実際に札幌市民の生活の中に何がある？」といったところは、そんなに拾われない。個人のSNSで円山エリアの話をしてた人がいて、その中でポストの話をしてた。その地域の中で、ポストひとつとっても地域性があるというようなことを言っていた。逆にそのほうが面白いし、みんなにとっても親近感が湧きやすいというか、敷居の低いポイントではないかと思った。
- ・SIAF2014では市内のギャラリーをまったく巻き込めなていなかった。それもすごい反省点になっているはず。
 - 今年は巻き込むのだろうか？
 - 札幌でやっている以上、根っこにそれがないとまずい。

→今年は公募企画で通っている(『札幌ギャラリー×ゲストハウスプロジェクト「アートは旅の入り口」』札幌ギャラリー×ゲストハウスプロジェクト実行委員会)。

→大体関係してるところのギャラリーしか使ってない印象。

→「いつものあのへんの人たち」という感じ。

※企画の主催に関わるギャラリーはギャラリー門馬 & アネックス、キタカラギャラリー、サロンコジカ、トオンカフェ。

→前回の「SIAFについてのモヤモヤしたアレ」の座談会に出たときに、ギャラリー門馬さんのあたりから、芸術祭をやるとういう動きが始まったという話を初めて聞いた。いいだしっぺみたいなのに、そのギャラリーも普通に芸術祭参加しただけでは、その流れの大元にあるというような話が、見た人には全然届いていなかったことに衝撃を覚えた。でもその流れが見えると、地元の芸術祭に参加してる気分になる。そういうバックボーンで、そういうフィールドで、ギャラリー門馬に行こうかな、と思うようになるのは大事かなと。個人的にやっと私も、先日ギャラリー門馬に行った。こういうところだったんだなと。

→この『札幌ギャラリー×ゲストハウスプロジェクト』の中に、画廊喫茶チャオは入ってこないだろうという感じだ。

→私も、画廊喫茶チャオは入らないと思う。あそこは現代アートではない。

→何故そこで、現代アートという縛りなのだろうか。

→私も分からない。『札幌ギャラリー×ゲストハウスプロジェクト』をやっているギャラリーの人たちというのが、たぶん現代アートをやっているギャラリー門馬や、ギャラリー創、トオンフェといったあたりだろうな、ぐらいの雰囲気しか知らない。現代アートに絞る必要は特にはないと思うが、たぶん現代アートになってたほうがまとまりやすかったり、話が通りやすいのでは。

→札幌にどんなアートが実際存在するかということよりも、話の通りやすさが優先されるということになるのだろうか。

→それは実行委員や『札幌ギャラリー×ゲストハウスプロジェクト』の企画の人でもないし分からない。

・「札幌ギャラリー」というのは集団なのだと思っていたが。

→「札幌ギャラリー」という固有名詞ではなく、札幌のゲストハウスプロジェクト。どこのギャラリーやゲストハウスが参加しているのかはウェブサイトに(プレゼンテーションが)公開されている。salon cojicaとか、ゲストハウスの何個か。だいたい仲のいいところ。

→もちろん仲悪いところとは合意形成できないだろう。

→あんまり広げたら広げたで大変なので、ギャラリーが4つ、ゲストハウスが4つとか、そのぐらいの規模でひとつのプロジェクトでいいと思う。そういう塊が何個かあるといいのかもしれない。現代アートかどうかというよりは社会とか地域とか、そういう芸術以外のところとくっつけて出せるかどうかにかまけてるのかなと思う。札幌ギャラリーの人たちがではなく SIAF 公式で今回扱うものとして。市民というよりは、旅人など元々接点がない人たちも呼び込める要素を持っているものが選ばれるというのがひとつの基準なのかなと感じる。地域だったり、例えば北 24 条エリアならその辺りの人が、足を運びやすい何か仕掛けをすれば、芸術祭の参加というか、関わっていただけるのではないかな。それをくっつける人とかがいて、どうですかって画廊喫茶チャオ(北 24 条に所在)などのほうに提案したりとかしてる人がいるといいだろうなと思う。

○エリア

・円山エリアの話は円山界隈から大ブーイング。

→「生活が浸食される」とかではなく、エリアの捉え方が曖昧。

→そういうところが浅いというのが出てしまった。

→(パブリックミーティングで円山エリアについて話した) 上遠野さんはテンションがあがりまくっていたから、口が滑ったんだろうと思う。それが分かっているわけではないと思う。分かっているのだろうか。

→分かっているか、分かっているか、分からない。何をやるかも不明。エリアが発表されているだけ。パンフレットの(山道の)写真は参考の画像。

- ・上遠野さんが円山界隈でやろうとしているのが、私には見えない、何やろうとしてるのか。何をやる気なのかな、と思っているところに、「円山の藻岩山」の発言の件で地元から総スカンくらっているから、「大丈夫？」って思っている。
 - 大丈夫なんだろうか。
 - 分からない。
 - 何かあったら、助けてあげたら。
 - （8月7日のパブリックミーティングの）あのテンションにはついていけないと思う。ステージでエプロンつけたりするし。
 - 申し訳ないがあの時は一人でドン引きだった。
 - 芸術祭のような大きいイベントが札幌ではなかったし、そこに関わって自分の名前を出して発表できることはなかなかないから分かるけど、「そこは落ち着こう」みたいな感じ。
- ・「円山の藻岩山の発言」とは？
 - 「円山エリアでやる」と言うのに、円山のことがよく分かっていないような発言があった。それで円山近辺の人間、円山ではなくて「円山近辺」の人間が、「え？」となった。
 - 私の認識では、円山という山は元々モイワ山だったと思うのでそういう話を間違えたとかではなく？
 - 「円山エリアに藻岩山がある」と言ったのが間違いだったらしい。
 - 円山は確か、もとはモイワという山では？そういう意味では合っているのでは。
 - それはモイワという呼び方だけで、藻岩山は今は別。
 - 地元の周辺の人に言ったら、全然違う。
 - 例えば天気予報で、全国の天気図、北海道晴れ、みたいなふうにされされてしまうようなこと。旭川と札幌も違う。石狩地方と言われても石狩地方は広い。中部も全然違う、みたいな。そういうこと。
- ・すごく詳しく教えてもらったのだが、円山と言った時に、広い円山と狭い円山があり、どちらでとっても藻岩は入らない、という話だった。まずそこから始まり、レトロスペース坂会館とてっちゃんの紹介になった時に、上遠野さんがテンションマックスになってしまい、てっちゃんのエプロンを、なんだか知らないがステージ上でつけてしまって…。
 - ・てっちゃんにはよく飲みに行く。
 - ・てっちゃんに行ったことある。観光の人が来たら連れて行くのはいいかもしれないが、友達同士では使わない。まず予約が取れないし、申し訳ないけど、刺身の美味しいのが食べたかったら、ごちゃっと盛られているんじゃなくて、ちょろっと盛られているほうが美味しく食べられる。
 - ・レトロスペース坂会館だとか、こういうものに脚光を浴びせる、なんとか延命させようとする活動に対してはOKと思える。でも一体何をやるか分からない。それがもやっとする。さっき言ったように、継続的な経済の活性化、回していける地域性、構造的な部分、一体何が出来るか。坂会館では今でもわけの分からないいざこざをやっている。坂会館の館長もなかなかのキャラクターで(笑)、「あんたもあんただよ」とか心の中で思うんだけど、坂会館は残して、面白い。サブカルチャーも大事だと。要するに活性化。そういう部分で、では、どういう価値だとか、継続性、何か日常として、こういうところの町づくりの貢献というか、日常のアートというものを見出せるかということにはまだ何もコミットしていない。資料を見てもお役所の話にしか見えない。ローカルな部分ということは大それたと思う。公共性というものは大事。そこにアートと捉えうるものがどういうふうに、一発の打ち上げ花火ではなく、その後、その要因を続けていけるか。黒澤明の『七人の侍』のラストシーンで侍が、「勝ったのは農民ですよ」というようなことを最後に言い、すごく町の人々が活気に満ちている感じで終わる。北野武は、そういうことも座頭市の最後に入れてきてタップダンスを取り入れた。「七人の侍」の影響というか、オマージュみたいなこと。それで、「よっしゃ！」と言ってやるのが祭なわけで。芸術祭というのは元々ヨーロッパのものからコンセプトなどがきている。そういう部分と、活気というようなものを高める何かとしてこれからどうやってやるか。何も議論ができない状況だとか、声を出しても「すでに決まってんじゃん」というところとかのスキームの感じがある。いっぱいチラシ作って、宣伝していても中身見たら、「ケツが落ち着かないな、やったけどよ」みたいな。ケツのむずがゆさ、落ち着かないなという感じが、「モヤモヤしたアレ」なんだろう。ワクワクはもっ

と出来るはず。

→もっと素直にワクワクしたいんだけど、みたいな感じがある。

→私は単純に素直にワクワクしている。

→（素直にワクワク出来ないのは）SIAF2014があまり楽しくなかったからだろうか。当時、自分の周りもあまり盛り上がっていなかった。その頃は画廊喫茶チャオに入り浸ってることが多かったが、あそこは芸術祭の「げ」の字も出ないような世界。

・なぜ芸術祭でレトロスペース坂会館とてっちゃんで作るのかということの説明もよく分からない。よく分からないというか、説明してないと思うのだが、それで、「こんなすごいものがあるんだ！」と突っ走ってエプロンをしてしまった。結論、エプロンしただけだった。

→知ってる人と、好きな人はすごいって思ってるかもしれないけど、何も知らない人もいるという前提で話してほしい。

→なぜそれが芸術祭なのか。実際にレトロスペース坂会館のことで言うと、レトロに関わってるメンバーとは仲いいのだが、SIAFが触手を伸ばしてきてるって言った時に、みんな「何したいの」と言って、戦々恐々だった。「勝手に来て、荒らすんじゃないか、この人たち」っていう信頼関係が…、館長とはうまくやってるのかもしれないが、そういう話は館長からおりてこない。周りの人たちは色眼鏡で見るとはなかったように見えた。「札幌市のほうから来て何かやってる」といった感じ。

・レトロスペース坂会館にSIAF事務局の人がちょくちょく行って、ライブに参加するなり、そういうコミュニケーションがあればまたちょっと違うのかなと思うが、事務的な契約だけして終わり、となったら、なんだかちょっと。

→レトロスペース坂の館長としかお話をしてないと思う。いろいろなイベントがあって、とりまとめは館長だが、手伝いしているボランティアメンバーみたいなのがいる。元々いる運営のボランティアさんと、イベントごとにお手伝いする人、Sさんとか、他にも何人かいるんが、たぶん誰もSIAF側の話は直接聞いていないと思う。館長やNさんがちらちらと「来るんだー」というのを聞くぐらい。二人ともあまり説明もしない。だからSさんなどは戦々恐々だった。私はSIAF2014に関わっていたので、「どうなのか」と探りを入れられる人だったが、たぶんSさんが心配してるようなことの半分はないと思うものの、「半分は私も心配だ」という話をした。

・レトロスペース坂会館をSIAFの会場にしようとしている。レトロスペース坂会館にはすでにボランティアさんがいるが、SIAF側からボランティアとして誰かを送り込んでくるということをするんじゃないか。そうすると、元々いるボランティアさんの立場がどうなるかという点が、申し訳ないが、館長にはその辺りのハンドリングが出来ないので、そうすると元々いたボランティアさんの居場所がなくなってしまうという危惧と、終わったあとのこと、SIAF事務局はその期間だけ祭が出来ればいいわけで、終わったらいなくなる。私たちはレトロスペース坂会館に残される。それを見なくてはいけない。その点のケアは多分ないだろう。そこは危惧している。

→やはり打ち上げ花火になってもらっては困る。

→その通り。しかし前回のパブリックミーティングで、上遠野さんの話で何一つ分からなかったもので、「まだいいか」と静観している。本当にどういうふうにするのか分からない。というか、レトロスペース坂会館がその時あるかどうか分からない。随分ぶちあげてしまったなと思っている。

→（レトロスペース坂会館は）風前の灯火。

→意地でもそれは残しておかないといけないということになる。

→そんなのは関係ない。レトロスペース坂会館側からしたら、SIAFのために残す意味が分からない。

→そっち側ではなく、芸術祭側が残すように頑張らないと。

→金を出してくれれば残せるが出さないだろう。無理では。

→なんらかの資金にはならないか、SIAFが関わることは。

・一市民として、私の税金をレトロスペース坂会館の存続のために使うということにイエスとは言えない。申し訳ないが、「その前に使うところがあるだろう」と思ってしまう。だからそれは民間の力で残したらいいと思う。民間の力で残すために、行政がちょっとお手伝いするのはありだが、行政が資金投入してしまうと、資金がなくなった時に民間で出来なくなるから、甘やかしてはいけない。残すためのお手伝いはSIAFはもうしてくれている。内容を知らないだけで、やってくれているという事実は知っている。しかし、だからといって残るのかと言

われたら…。

- ・(レトロスペース坂会館で) どんなふうにとこまで話が進んでるのか、そういう話は、何も表に出ない。
→モヤモヤとした思いを抱えながら心配しているしかない。
- ・例えばエリアを「北 24 条エリア」みたいに括ってしまったら、もっと巻き込めるのになと思う。それこそ salon cojica も入る。
→ salon cojica と画廊喫茶チャオと粋ふよう。
→ちょうどあの辺りの道路があるので、その通り沿いの飲食店なども入れてもいいと思う。私も最近北 24 条に行っていたが、面白いお店があるな、と感じている。その辺りのエリアで出したほうが、本当はよかったのかなと。
→本体で円山エリアでもプログラムをやるうとして、まちなかエリアもある。北 24 条界隈も大きいのだから、あそこを出てくればよかったのに、と思う。言ってもしょうがないが。
- ・例えば琴似の会場としてコンカリーニョやパトス、神社とか、あの通りには他にもいろいろあるので、そういうエリアでやれば、本当はいいのになと思う。
→結局経済効果を狙っているなら、本当はそのほうがいいはずなのでは。例えばそこに観光客呼べたら、その飲食店でもお金を落とすのではないか。
→琴似には琴似の祭がある。コンカリーニョなどでやっており、SIAF と一緒にやる意味が琴似界隈で希薄だと思ふ。
→今の時点ではないが、それが芸術祭側から出たらよいのでは。
→琴似の祭に SIAF 側が手を伸ばすということはないと思う。
→祭というよりは、会場としてその界隈を舞台にすることができたら面白いかなと。地域の祭と一緒にやるのではなく。
- ・SIAF2017 の会場には近代美術館は入らない。最初発表された時から、近代美術館はなかった。
→北海道立だから？徳川（同時期に近代美術館で開催していた『徳川美術館展』）に勝てなかったから？
→徳川には勝てない。勝てなくていい。
- ・札幌市主催だから、札幌市のもてるところでやりたいというのはあると思う。モエシ沼公園や芸術の森など。
→それはそれでいい。どういうふうを活用していくか。どういうふうに関係性をつなげていける、見つけていけるか。その後のアートシーンは？
→大事なのはその後。
→札幌のアートシーンはどうなの、というところもある。

○地域

- ・結局ローカルの部分で、お互い見ている方向が全然違う。これは何かに似てるなと思ったらサッポロ・シティ・ジャズがそう。サッポロ・シティ・ジャズは 10 年経った。いろいろな企業、ということだが、いろいろな場所で開催する。普段音楽をやらないようなところ行って、それに何の意味があるだろうかと思う。であれば、最初の時点で、札幌のジャズカフェ、ライブハウスにお金を落とせるような、活性化させるような部分というのは大事だと思っていたが、うまく折り合いつかずに 10 年きた。僕のバンドにいた人間が、サッポロ・シティ・ジャズに関わる側のひとつの会社に入ったが、ようやく、地元の人間というものを、でかいホワイトなテントの中で演奏させたり、場合によってはパレードをやって、バルコあたりから歩行者天国にして…といろいろやっていったけど、その意味が分からない。けれども、彼がやれることは限られている。そのパンフレットに、札幌のジャズをやれる場所を広告として配ることがようやく出来た。10 年経った。それはそういうふうに、なぜだろうかと、こういう議論を彼と 5 年ぐらい前からずっと話してきて、彼がそういう会社に入って、ようやく少しそういうふうになってきた。もちろんブルーノートとか、いろいろなところは儲かるシステムになっているのだが、外タレを呼んできたり。いまだに、まったくローカルというものがないイベントではある。だから「困ったもんだな」という部分と、地元のミュージシャンとの乖離をよくしようとする彼らの意見というものと折り合いがつかずに、いろいろ有名な人を呼んで、興業をうつというだけのものになってしまった。だから面白いのは時期がある。

芸術の森でゆったりまちなかでゆったり、そういう感じで時期をもって。地下歩行空間でゆったり、営業とか、ミュージシャンにそういうのゆったりということがあがるが、結局同じだなと思った。そういう点では。活性化できていない。

- ・今のサッポロ・シティ・ジャズの話については、私みたいなのだと、でっかいイベントをやる意味というのは、たまたま通りがかりに、「大通公園通って、ジャズっていいな」と思った人が、今まで入ったことのないどこかのビルの地下の、入りにくくて、「私が行っていいのかな」と思うようなところに、「来ていいですよ」って分かって行ける、というのが、開催したことで何人か出てきたら、それはすごいいいこと、と思える部分があるけど、今聞いたらそういう感じでもないのだろうか。

→そういう感じだと思う。だけど、ジャズバーを会場にすることとか、実際の経済行為までには至ってない。市役所のロビーで音楽やらなくてもいいし、市役所の駐車場でやらなくてもいいけど、そこに店立たせて、経済行為に変わるようにしていったらいいのに、やめていった。最初は酒を出していたのだが。地下歩行空間でやっているけれど、誰が儲かるのか分からない。本当の売れてる人たちは、コンサートをしにくるけれど、それはそれでいいとしても、「面白いね」だけで終わって、どこかが儲かって終わるだけ。

→今話を聞いていて、地元との話は、2017のプレスリリースのどこかに書いてたのかなと思った。

→一応地域のなんとかとの連携のような話は、古い概要などにちょいちょい出てくるし、書籍にもどこかで書いていた。でも「連携って何」だし、「連携は実際どこでどうしてるんだ」と。

- ・前回 SIAF2014 の連携事業はまったく意味がなかった。ただの札幌市の公認みたいな感じで。ハコレンも連携をとっているが、申請すれば基本的に通るから。でも通ったところで何があるかという、アドバイスがあるわけでもないし、補助がつくわけでもない。逆に芸術祭のマークをつけるだけで、芸術祭の広報をしてもらっている感じだとしか私には思えなかった。

→「一緒にこんなことしましょうか」みたいな感じではなさそう。

→書類だけの話。それだったら連携とは言えないなと思っている。

→コミュニケーションとったり、連携云々というのは苦手なんだと思う。

- ・行政の人たちも「共同」と10何年前から言っているが、いまだに言っているということはいまうまく出来ていない。
- ・札幌の現代アートの人たちは人見知り多い印象。
 - 勉強できる人たちがいるからちょっとかわいそう。
 - もったいない。

- ・そもそも意識の中でこっちを向いてないということだろうか。地域とアート、アートに触れてない人を巻き込む、のような行政的な感覚で、地元のアートの界隈はあまり意識されてない感じだなと思う。

- ・サブカルチャーをちょっとやろうとしてるところが、理屈、機能的な話よりも情緒的な部分を大事にしようとしてるふうに見えた。レトロスペース坂会館やっちゃうとか、盆踊りにいこうとするところが、大衆的に何が言いにくいんだろうというところをちゃんと大事にしようとしてる部分がちらっと見えるから、難しい話ばかりじゃなく、いろんな人に間口を広げようというところがある、いいふうに言う。私はそう思った。

→種はいいからあとはやり方、そこをどうするのかとか。

○経済効果

- ・一応 SIAF2014 の際の経済効果も出ている。

→すごいももりに盛ってある。

- ・2012年からちょいちょいやってる。2014のときは公的資金は、札幌市の負担金がこれは2億ぐらい、国の助成金も2億2,000万ぐらい。協賛金、企業から入ったお金は3,500万で、チケット収入は8,700万ちょっと、それとエキシビジョン収入、スライド収入、グッズ等収入ということで。5億いくらの収入があって、支出で最終的に5億いくらか出ているので、きちんとトントンになるように、数字合わせて作ってきたな、という感じ。毎年きちんと合わせて。変な利益もないし、赤字もないということか。数字が合うほうが違和感あるのだが、こういうものだろうか。

→そうしないとまずいから、そうしている。

※札幌国際芸術祭 2014 開催報告書の収支を参照した。ただし、決算見込の金額とのこと。

- ・ SIAF2014 ではモエシ沼公園の野外公演が雨が降って払い戻しされたことがある。そう考えると赤字になるはずでは？
- ・ サッポロ・シティ・ジャズも赤字にならないように続けているが、意外と、あれだけバーンと広告を作って、あちこちにやるものの、赤字ではないが、意外と遠くまでコミット出来ておらず、意外と出来ることが少ない。黒字でもトントンでも、実際にはそこまで遠くまで届いてない、というふうに考えたほうがいい。数字の部分でソフィスティケートしてるけど、いろいろプロジェクトがあって、ちゃんと事業としてやっているとは思いますが、でもやれることは本当に小さいもので、でもその小さいところは大事なんだと思う。いろいろ拡散はしているのかもしれないが、出来ることはほんとに小さなこと。それを大事にするか、それをどうするかってことを、もうちょっと出来たな、ということをやっていくと、すごくいいのかな。必要なかない、ということもいいけど、もっとどういうふう楽しんだらいいだろうか、ということ。でもエキスポにしか思えない。

(4) 祭

「祭」という言葉から発生する話題については従来の伝統的な祭、SIAF、八月祭、YOSAKOI などに話がまたがったため、別項目とした。参加者それぞれが何を祭と思っているかということ、また、「SIAF は祭か、エキスポか」という話にも及んだ。

○祭とエキスポ

- ・ 八月祭でも芸術祭でも、祭というものを単なるお祭り騒ぎではなく、もっとコンセプトを持ってやるべきだと思う。そもそものコンセプトの部分でだんだん変わってきているのではないか。本当に地場で始めたことではない、という難しさがあるのでは。要するに、YOSAKOI 的になっているのでは？
- ・ さっぽろ八月祭自体は間違いなくこれは盆踊りと思う。
- ・ 盆踊り自体が明治時代に、観光などにつながるようになんか流行らそうということで植え付けられたもの。そもそもの発端は地場から来たという部分もあるが、盆踊りぐらいしか新しいものがその時はなかった。日本にはいろいろな祭があるがどんどん減っていつている。盆踊りはその中でもポップな部類だから、これもコンセプトとして間違いではないと思う。単なる祭でなく、芸術祭ということで、祭とは何か、芸術祭だということに重きを置いたほうがいいのかなと、今思った。盆踊り自体がそもそもポップなものだから。供養というものもあるんだけど。日本のマルディグラス（※）みたいなもの。
※筆者註：オーストラリア・ニンピンで年に 1 回開催されるマリファナの収穫を祝う祭。
- ・ 祭も実は、人によっては不快感を及ぼすようなものが結構多い。各地に神楽というものがあるが、いろんな怖さ、不快感をあえて与えようとするものもある。鬼、なまはげなどいろいろなまればいのようなものが訪ねてくる。そういうまればいと感覚が大事なのだと思う。内発的なものも大事だと思うが。非日常性と日常というものが両方あっていいのだろうなと思った。
- ・ 分からないことがあったほうが面白い。
- ・ すごく難しいと思っているのが、祭と芸術の現代アートとを並列するというのが無茶だなということ。私の中での祭というのは伝統。だが現代アートというと、伝統を打破して次に行こうとしている動きだと思う。それを並列すると、私の中でもやっとする。
- ・ 基本的に今までの古典的な祭というものが、長い歴史の中でさまざまに書き換えられたりいろいろあって、要するに、伝統と古典が同居して生きてきた部分がある。どこを残して、どこをアクティブにしていくか。面影を残し、そこに移ろいを入れてきてるわけで。移ろいというのが伝統だと思うし、面影というのが古典だと思う。
- ・ 基本構想では上田市長はこんな風書いていた。
→市長の挨拶には（今の話題にあがったような）祭についてのものやっとしたものに対する答えは書いていないようだ。

- ・SIAF2014の坂本さんの時にはそこに対するものが感じられなかったから。もしかしたらSIAF2017では大友さんはそこをついてきてくれるのではないかと少し思っている。だがプロジェクトもまだ全部発表されていないし分からない。
- ・エキスポならエキスポでエキスポの楽しみ方がある。
 - すごく大事なところ正直私はエキスポだったら、こんなに前のめりではきていないと思うので、そこが私の肝なんだと、今、話を聞いていて思った。私は「祭」に興味がある人なので、エキスポだったら全然多分関心がない。
- ・「これも祭だ」と言われたら「違う」と思う。
 - きっとその「違うよね」というところが擦り合っていない、という話が冒頭にあったのが、「ああ」と思って、もしそれがうまくかたちで融合したりすることがあったら、私はそこにワクワクするはずなのだが、それがなっていないということは、今、これがこうなって、まさにそれがモヤモヤしているということなんだと。
- ・例えばこれが祭ではなく、「札幌国際芸術事業」だったら、とっても本質的だけどこない(笑)。祭っていうものに関する捉え方がみんなすごいんだと思う。これがエキスポだったら、もっとポップに響いちゃうけど、祭っていろいろの想いがみんなにあるから響いてしまう、ふさわしいな、と思う。その言葉は大事。だけど、本質的にはエキスポなんだろうなと、エキスポにしてくれと言っているのではなく、雪まつりだって、何でも祭。この町はそういう町。そんなのいつものことで、YOSAKOIはYOSAKOIでいいんじゃないか、というところは認めていだろうということも私は持ち合わせているし。あれと一緒にされたくないという私の友達、神宮祭のお囃子やっている人たちは、「てやんでい!」という感じで言うが。それはそうなんだが、でも、いいんじゃない、という感じ。本来と将来というものは同時にあるべきだと思う。本来というのは、例えば神宮祭のようなものだと思うが、将来というのはYOSAKOI。両方あっていいと思う。「じゃ、何を祀っているんだ」といろいろ言うのもいいが、そういう関わりのほうが逆に面倒くさい。
 - YOSAKOIが出てきたからって、昔のお囃子がなくなるわけではない。
 - 両方あったらいい。
- ・音楽はいい。音楽は大事だけどそこに精神もってきた時に…。例えばヨガが流行っているが、ヨガの本質を何一つ曲げないで、ここに持ってこれるか、ということ。そうやってると、そんなにヨガは広まらない。なまらうざい。「そんなのもういい」ってなる。
 - カレーですら本場と違う。
- ・そもそもでは仏教というものが、どういうふうに関係して日本において伝わってきたか。最初は仏教ではない。仏像が来ただけ。そこでいろんな争いが起こって。それに対して、当時の宗教、土着の宗教がミックスされて今に至った。そういうところに、本来と将来というものが同居して、和合というか集合してる。それで新たな型を生んでいった、というのがこの国とか他の国の伝統。そこで、イタリアの芸術祭的なものが、別のものになったとしてもいいわけで、それが翻訳の強さで祭って訳されてしまって。エキスポではない。エキスポ的な部分に入っているでしょ、というけど、それは本来でしょう、と。でも将来もある。いろんなことやろうじゃないか、と。それだと私はYOSAKOIでもなんでも構わない、と思う部分もある。構造的な部分もあるし。
- ・個人的に聴覚的なあれとしてわーわー言っているのが受け付けられないので、YOSAKOIはそんなに好きではないが、踊りとして参考になるから見に行ったり、ということはある。通りすがりに見て、「あ、ここいいじゃん」と思う人は優勝したりするので、やはりそれはそれなりに感動するものはすごいっていうのはあるのだが、2011年にたまたま通りすがって見た時に、その年は鎮魂ということが前面に、というか、参加する人の中にあっただけで、自然と、意図せず、本当の祭だな、という感じが、見ててすごくした。それは勝手に起こった。東日本大震災という物事があって、本当に自然に集まる人々の中の鎮魂したいという思いと、元々あったYOSAKOIというやつが見事にマッチして、私の中では「あ、これは祭だ」と見ててすごく思った。自然にその中で湧いて出た、奇跡のあれだな、と思った記憶がある。私はそういうものに会いたいという、本当の祭に触れたい、というのがあるのだが、多分エキスポであったとしても、その中に本来的な祭のエネルギーみたいなものが注入されて花開く瞬間を見たいというのが、多分あって、私はそういう意味でこういうところにいる。何かを期待しているというのは、見えてきた何か、上澄みっぽくなっていて、繋がっていない気がするが、根っこのところのアー

トなるものが本来的なかたちでエネルギーを爆発させる瞬間を見たいなと思っていて、今、話を聞いていると、ちょっとづつモヤモヤの、どこがモヤモヤしているのかが見えてきたので、うまいことこれが結びついてくると、少なくとも私の中ではどこかで答えが見えてくるかもしれない、という期待がちょっとありつつ、いろいろヒントをいただけたかな、と思うところはある。

→ SIAF についてのモヤモヤしたアレと、SIAF がつながるか分からないが。

→ 会期始まらないと分からない。会期始まって解けるものもあるだろうし、もっとモヤッとするものもあるだろうし。

→ そればかりは自分が主体で関わってるわけではないので。

○ SIAF についてのモヤモヤ

- ・ (公式資料の) こういう概要を全部読まないで意見できないのではないかなと思っている。意見というか、モヤモヤしているところをちゃんと探さなくては。
 - ・ どういう関わりあい方をするかは感じ方。どうやって解決するかは個人の仕事になるかもしれないが、みんなのモヤモヤしたアレを聞くのも面白いと思う。「なるほど、そこにモヤッてるのか」みたいな。
 - ・ モヤモヤしたままのやつもちゃんと残してほしいと思っている。2017 のやつで、すっかりしちゃうと私の中で流れてしまう。モヤモヤしているほうが私の場合は残る。何度も何度も考える。だからすっかりしなくてもいい、と思っている。モヤモヤしたままでいたい (笑)。
- それは素敵なこと。無用の用ということが、アートの大部分。自分たち必要だと思ってるところばかり掘り下げてても仕方ない。
- 芸術とかだと、違う視点でとか、違う視座でどうだこうだとか言うんだけど、あの人たち、面倒くさい言い方するから。照射するとか言われると何照らしているの、と思ってしまう、もっとわかりやすく言って。

(5) SIAF についてのモヤモヤしたアレ

今回、SIAF 事務局の方から質問をいただいたことについても簡単に話題に上った。

- ・ SIAF の中の人から、「アンチ SIAF じゃないよね」と確認がいったのか？
 - 漆さんに聞かれた。どのぐらいのノリで聞いたのか分からないが。
 - 「アンチじゃないよね」とか言ったら、「いつアンチになるかわかりませんよ」って。
 - 本気でアンチの人たちも話をしているのだろうか。
 - 個人的にたまたま会えばそういう話題になることあると思うが、わざわざこういうふうに集まって、ということはしていないと思う。
- 何もわざわざやって潰すほどのものではない、まだ。ただ、前回の SIAF2014 の時には「オンブズマンを担ぎ出す」と言っていたアンチの知り合いの人もいる。実際に出たかどうかは分からない。認められれば同じだけ攻撃はされるだろうから、いい話も悪い話もあるだろうが、私は SIAF2017 は楽しみにしている。まだまだ発表してないプログラムもいっぱいあるようだ。アーティストもまだ全部ではない。

(6) 札幌のアート界限

札幌のアート界限そのものへの感想もあったため、この項目で紹介する。

- ・ 個人的にはこの座談会に参加することで、だいぶアート界限が近くなってきた。自分の中のアートに関する感覚がだいぶ。遠いものだった感じが、アート、ちょっと寄ってきたな、みたいな感じがある。それまでアートとい

うと、「小難しいことを小難しめに言う人がいっぱいお金もらってやる」感じだった。私はこの辺であまりご縁がないし。

- ・私はアート界隈の人たちが何を言っているか分からない。「ごめんなさい」と思う。あの人たちは、その言葉じゃないと伝わらないと思ってやっているし、私にもスパッと入る時もある。でも基本的には分からない。新しい言葉で、もっと自分の気持ちに即した日本語をすごく探してはいる、すごい努力してる。その人に対して、「あんたたち、何言ってるのか分からないから」と言うと、努力をまるっきり否定することになる。
- ・私は小難しい話を聞くのが好き。言葉自体が。ちょっと小難しい話をされるのに、知的欲を満たされる感じがするので好きなのだが、本当に届く言葉ならスッと入ってくるが、どこか何か、自分と違うものみたいな、システムのようになっているところもあるし、それこそ「うちはそういうのと縁がない」みたいなふうにみんななっているようだ。こういうことをやると、そうじゃないんだよ、ということ、みんなやっているのだけど、でも多分、ワークショップして、親しみを持って、みたいなレベルでしかやっていないのが、そうじゃない感じで私の中に近づいてきたという意味で、今日、自分の中ではいい感じ。流れ的に。今日の移ろいと面影の話もよかった。
→私はエキスポの話がぴったりときた。

(7) 最後に

今回も SIAF2014 に関わっていた方に参加いただいたことで、「見ているだけの側」以外の視点および情報を得ることが出来た。主催高橋がいるようなローカルなアマチュア活動においても「やる側」の思うことや温度と「見る側」のそれとは差異があるのが通常と思われ、直接のコミュニケーションなしにその差異があることに気がつくこと、どんな差異であるかに気付くことはやや困難と思われる。「SIAF についてのモヤモヤしたアレ」で様々な立場の方による意見交換の場に同席できることは、個人的には収穫が大きい。他の参加者およびこのレポートの読者にも何か得られるものがあつたら嬉しく思う。「SIAF がどうか」ということは最終的に目的にはなりえず、「自分たちの住んでいる土地はどうか」「自分たちはどうか」「自分はどうか」がより最終的な目的に近いのではと回を重ねるごとに感じている。

今回のレポートは主催高橋個人の活動の都合などもあり大幅に遅れることとなった点、お詫び申し上げます。現時点でレポートはまだ 4 本が未完成となっているため、なるべく早く書き上げたい。

平成 29 年 2 月 26 日

高橋弘子